

「子供たちの未来づくり」⑥

— 財光寺小学校5年生の挑戦①



「学力向上」は、学校にとつてはもちろん、家庭においても大きな関心事だと思う。だから、どの学校でも家庭でも、繰り返し繰り返し取り組まれてきた。そんな中で、ある挑戦的な試みが、財光寺小学校5年生で行われている。

それは、最近の子供たちが勉強への意欲をなかなか高められないことへの強い懸念と、何とかしてあげたいという深い思いが先生から語られたことから始まった。

勉強しようという意欲は、どうしたら生まれるのか？そのためには、きつと「何のために学ぶのか」という問いを避けることはできないのではないかとということになった。しかし、さすがにこの問いは、小学5年生には難しい。では、どうすればこの問いを子供たちに考えさせることができるのだろうか？先生との議論が、毎週放課後の時間を使って何回も重ねられた。議論と検討の結果、先生からの提案で、三つのテーマを取り上げることになった。それは「学ぶことの意味」「将来の夢や希望」「働くことの意味」である。

このテーマに添って、「よのなか

教室」を活用して、実際に働いている大人から、本気で子供たちに語ってもらう企画がスタートした。昨年9月に第一回



年間を延べ8回実施された。8人の様々な仕事をしておられる方々が快く協力していただいたおかげである。

子供クラブ教師、新聞記者、ものづくり企業経営者、看護師、森林組合幹部、ベンチャー起業青年、大企業幹部、菓子店経営パティシエ…と書き連ねただけでも実に多彩だ。

子供たちは、日頃接している親と先生以外の大人たちから、本気で話を聞く機会にはなかなか恵まれない。よその大人から、それも8人の様々な仕事をしている人々の話を聞いて、子供たちは何を感じたのだろうか。そして、どう変わって、あるいは変わらなかったのか、次回にその後の様子をお伝えしたい。

文／日向市キャリア教育支援センター長

水永 正憲